

## ダム水源保全かん養活動の概要(23年度)

**目的** 上越地域住民へ将来にわたり、おいしく、安全な水道水を、安定的に給水するため

**活動地域** 上越水道企業団が取水する、柿崎川ダム及び正善寺ダムの集水区域  
(柿崎川ダム 1,250ha 正善寺ダム 630ha 合計 1,880ha )

ダム水源保全かん養推進委員会  
・構成(19名)  
森林植生・水文学・地質等の専門家、環境や自然に関わる市民活動家、関係行政機関や団体、地元住民  
・活動の推進に係る助言及び実施計画に基づく評価等

### 基本方針

### 1. 水源林

水源林の植林や育林を行う

- ・雑木林の維持管理
- ・人工林の維持管理
- ・広葉樹やスギの植林
- ・放棄農地への植林 など

### 2. 水質

水質監視と汚濁防止対策を行う

- ・合併処理浄化槽の設置推進
- ・産業、農業排水の調査と対策
- ・不法投棄物の回収
- ・不法投棄される環境の改善

### 3. 啓発

啓発活動を活性化する

- ・水源地域住民とのコミュニケーション強化
- ・活動団体や関係機関との連携
- ・学校林や地域林の設置推進
- ・関係条例等の活用 など

### 4. 人材

人材を確保し育成する

- ・森林技術者の仕事場の確保
- ・一般への参加呼びかけ
- ・ボランティアの育成
- ・水源林育成リーダーの育成

### 5. 資金

活動資金を充実する

- ・新たな補助制度の設置
- ・助成金を含め資金の受け入れ体制の充実
- ・広く資金を集める

### 24の施策

効果・必要性から 短期(5年以内着手)、中期(10年以内)、長期(15年以内)に分類

18年度・19年度

- ・専門家による現況(植生等)調査
- ・専門家によるゾーニング
- ・森林整備・維持管理計画の策定

19年度から継続

- ・森林整備と生態学的混播・混植法による植樹
- ・森林整備対象面積20ha/年

- ・森林整備後の定点モニタリングによる評価
- ・「森の健康診断」による評価(調査・啓発)

18年度から継続

- ・合併処理浄化槽の設置推進  
黒岩地区生活排水の水質浄化を推進する
- ・不法投棄物の回収  
企業団職員 4回/年  
他団体との共同 3回/年
- ・投棄防止フェンスの設置
- ・ダム流入河川の水質調査
- ・捨てにくい環境づくり

18年度から継続

- ・地元の方々とのコミュニケーション強化
- ・地元活動との連携  
ダムっ湖スポーツ大会、あじさい祭り、城ヶ峰の砦の整備 など
- ・水源林自然観察会の実施  
小学4年生が水源林を五感で楽しみ、広葉樹の苗づくりも行う(『学びの森』を中心に)
- ・活動情報の提供  
広報誌やHPで活動情報を広く提供する
- ・講演会の開催
- ・地域とコミュニケーション  
水源かん養地域との調和と協力

- ・柿崎川ダム周辺の植樹(第5回)
- ・岡村俊邦教授の講演会  
植樹法(生態学的混播・混植法)開発者

18年度から継続

- ・ボランティアの確保、育成  
関係活動団体との連携のもと、水源林自然観察会における案内役を確保、育成していく
- ・ボランティアによる植樹用苗の育成

- ・柿崎植樹苗の育成  
正善寺地区の方から柿崎植樹用苗の育成協力
- ・市民プロジェクトチームとの連携  
河川水調査、水質向上策の提案

植樹用苗の育成  
正善寺地区の方へ

植樹方法の開発者

北海道工業大学大学院 岡村俊邦教授の講演会

18年度から継続

- ・補助金制度の設置  
上越市の補助制度に上乗せする合併処理浄化槽設置補助制度
- 19年度から継続  
・森林整備、植樹に係る補助  
流域育成林整備事業補助金 補助率68%

- ・基金の創設  
水源保全かん養活動の推進

みんなでつくる水源の森  
(種から育てた苗を大地に植樹)



森の健康診断(正善寺ダムと柿崎川ダム周辺)



森の健康診断:夏知果矢作川水系森林ボランティア協会モデル

森林整備(姿を現した"かきざき湖")



北海道炭川環境市民フォーラムHPより



みんなで守り育てる大地とみどりと上越の水